参考３

渡良瀬遊水地保全・利活用協議会第３回遊水地保全・再生検討部会　議事要旨

日　時：平成２８年２月２４日（水）　１５時００分～１７時１０分
場　所：栃木市藤岡遊水池会館　２階中会議室
出席者：別紙出席者一覧表（構成員：４４団体中２８団体（４２名）、
オブザーバー：４団体中１団体（１名）が出席）

＜議事要旨＞
※部会については、栃木市と小山市が交互に事務局を務めることとなっており、本会は栃木市が担当。
栃木市遊水地課　與澤が司会進行。

１．開会
・司会より開会の辞

２．挨拶
【部会長より】
前回の部会からの継続で、３・４つめのテーマの結果について事務局より説明し、前回のテーマについても併せて専門家の方をお呼びしているのでお話をお伺いする。また、次回の部会の開催が５月末になるため、遊水地での活動が活発になる春先の各構成員の活動についてご紹介いただく。さらに、今後の進め方についても整理したい。本日の部会が有意義なものとなるようご協力をよろしくお願いします。

・司会より資料の確認

３．議事
（１）
【議長より】
議題（１）アンケート調査結果　３及び４について事務局より説明をお願いします。
前回は各構成員に取組内容の説明をいただいたが、重複する部分が多いため、事務局から一括して説明いたします。そのあと、補足などの説明がある場合はそれぞれご説明をお願いします。

○事務局
・資料１、資料２及び資料３に基づき説明

【議長より】
ただ今の事務局からの説明について補足などございましたらよろしくお願いします。
特に無いようですので、事務局の説明でアンケートの結果とご了解いただきたいと思います。

（２）

【議長より】

　続きまして、議題（２）各テーマ（案）における現状と課題等について、前回の部会の内容も含めて、専門家の方をお呼びしております。また構成員の方からも専門的な見地から、お話を伺ってすすめたいと思います。よろしくお願いいたします。

○植物関係　長島　永幸氏（渡良瀬遊水池を守る利根川上流住民協議会）資料４

・２年前から第２調節池において国土交通省が大規模な掘削事業を行っている。住民協議会では２年前から市民による生きもの調査として現地の継続観測を行っている。

・湿地再生という形で、４～５箇所に池のようなものが掘ってある。湿地を再生するために土壌を取り去って地下水で池になるような状況にして自然の回復を図ろう、取り除いた土で堤防を強化しようという保全と利用を考えた事業である。

・国交省では１０年近く掘削地の植物・動物について調査しており、希少な植物が無い場所を掘削している。

・市民調査では、掘った所からどのようなものが出るか、国交省の調査が目の届かないところを２年間観察調査している。

・掘削したからといって、特に珍しい植物がみられるようになるわけではない。植物の生え方が土を掘った裸地の状態からどのように変わっていくのかを観察したものが資料４に示したもの。

・掘削１年目は土がむき出しの裸地の状態、２年後はまばらな草原になり、今年は人が入るのがためらうくらいに植物が茂っている。5年もすれば人が入れないくらいになる。

・２年間調査して分かった事。掘削したことによって希少種が沢山生えて自然が豊かになるわけではない。

・裸地を作ったことで、今まで遊水地の中になかった帰化植物が確認された。道ができたことによって、今まで遊水地にはなかった遊水地の外の田んぼなどにある帰化植物が遊水地の中心部に生育した。

・掘削して外から水が運び込まれると、遊水地のど真ん中に帰化植物が生えるセンターのようなものが出来てしまう可能性がある。

・現在の掘削地は希少な植物があまりない場所なので問題ないが、何かのきっかけでそうなった場合の対応を考えておいた方が良い。

・大規模に掘削したことによって、最近見られなくなっていた希少種がみたれたものもあるが、これは５年くらいで無くなってしまう。遊水地の他の場所で見られない希少種なのであれば、種を採取して湿地園などで栽培するなど、方法を考えておくとよい。

○昆虫関係　大川　秀雄氏　（渡良瀬遊水池を守る利根川上流住民協議会）パワーポイント

・湿地再生地の昆虫調査を２年間行っている。そこでどんなものが見られるかの報告になる。

・オサムシ科は渡良瀬遊水地には２００種類くらいおり、２０種類くらいが国の絶滅危惧種である。

・渡良瀬遊水地では約６０種の絶滅危惧種が確認されているが、そのうちの３分の１がオサムシ科の昆虫である。渡良瀬遊水地はオサムシ科の宝庫である。いろいろな環境にさまざまなオサムシ科がおり、環境を知る指標としても有用な虫である。

・ピットホールトラップ（落とし穴）を水辺に近いところと、少し離れたところに設置し、トラップにかかった昆虫の結果になる。イタチ、タヌキなどの哺乳動物によってトラップから昆虫が抜き取られ

てしまうこともある。

・トラップの位置は５メートル程しか離れていないが、水に近いところと少し離れたところでは捕れるオサムシカの種類が違ってくる。継続して調べていくと、何か面白いことが分かるかなと思っている。

・エリザハンミョウ（ニラムシと言われているもの）は実験地にはたくさんいるが、他にはいない。

・水中にはイトトンボ、ギンヤンマなどのヤゴ、ミズカマキリ、タガメのなかま、ユスリカなどが見られた。

・水位変動実験地。こういう環境が虫にとっていいのかなと思う。

・調査の結果考えられること。2015 年は７月と９月の増水でほとんど調査が出来なかったが、それは絶滅したわけではない。氾濫原とはもともとそういうところ。環境が整えば虫は戻ってくるし、虫自身もそういった環境にしか住めない。

・洪水などが分布を広めるチャンスでもある。今後の経緯を見守りたい。継続的な推移を見たい。

・大きな池だけでなく、いろいろな池があるのが虫にとっては良い環境だと思う。

・セイタカアワダチソウなどが生えていたが、冠水したおかげでだいぶ枯れた。冠水はある程度必要。

・今の遊水地は異常な状態。氾濫原の環境をせめて２０１０年頃の状況に出来ないかなと思っている。

○野鳥関係　一色　安義氏　（渡良瀬遊水地野鳥観察会）資料４

・「渡良瀬遊水地の野鳥の現況と今後のこと」の資料に沿って説明。

○野鳥関係　内田　孝男氏　（わたらせ未来基金）資料４

・現状を知るには過去を知らないと比較できない。谷中湖とその周辺でどのような鳥が見られるか。中央エントランスから中の島、史跡保全ゾーンへのルートで探鳥会で３０年にわたって調査した結果の表になっている。４種類を例としてグラフに示した。

・みられる種が少なくなっていることがわかる。

・野鳥の中には環境になじんでいくものと、なじまないものが居ることを知っておいてほしい。

・チュウヒは番で繁殖する数が日本では少なく、注目された。2006 年、2008 年、2010 年に日本野鳥の会でチュウヒとはどんな鳥なのか、どういう湿地性の鳥が減ってしまっているのか、これからどのように維持し、増やしていったらよいのかが話し合われたチュウヒサミットが行われた。

・渡良瀬遊水地でも、チュウヒの繁殖の兆しがあったが、うまくいかないのはヨシ焼きが影響して入るのではないかと思う。

・チュウヒが越冬する場所としても、日本として数少ない１箇所であるから、遊水地でも繁殖できる環境を作っていきたい。

・渡良瀬遊水地は、ヨシ・オギ原を中心として、そこに入り込む河川、河川両岸の林、旧谷中村の屋敷林や竹林がいいバランスで残っている。第３調節地の防波林もワシ・タカ類の営巣地としての重要な地点になっている。

○クリーン作戦について　利根川上流河川事務所　調査課　高橋専門官

・利根川だより７は、２７年４月に行われた渡良瀬遊水地クリーン作戦の様子で 292 団体、5000 人の参加があり、約 45ｔのゴミが集まった。大きなごみは利根川上流河川事務所で、それ以外のゴミは４市２町で処分を行った。

・平成２６年と２７年の渡良瀬遊水地ゴミマップ。利根川上流河川事務所で作っている。河川巡視のパ

トロールカーが現場に落ちているゴミをチェックしているものをマップにしたもの。毎年、200 件以上のゴミの投棄が確認されている。

・クリーン作戦は渡良瀬遊水地では４月に関係市町の協力で実施しているが、利根川でもクリーン作戦を行っている。

・来年度は、４月１６日（土）に渡良瀬遊水地クリーン作戦が実施されるので、ご協力をお願いしたい。

【議長より】

質疑がありましたらお願いします。

○渡良瀬遊水地第２調節池周辺地区治水事業促進連絡協議会　米田氏

・湿地再生の工事が進んでいる。昨年の９月の豪雨の時は第２調節地の中に水を入れてもらえたので、堤防の決壊を免れた。周辺に住んでいる住民としての意見としては、自然も大切だが周辺の住民のことも考えて進めてもらいたい。

（３）

【議長より】

議題の３について、３月~５月の各構成団体の取組み情報提供を事務局より説明をいただきたい。

○事務局

・資料５に基づき説明

（４）

【議長より】

議題の４の今後の進め方について、前回から今回にかけて４つのテーマについてお話を伺い、現状の認識と課題の把握をおこなってきた。４つの項目のどれを取組めばよいか、ご意見をいただければありがたい。

○わたらせ未来基金　内田氏

・昨年の５月の連休にルール&マナーの配布を行った。先日、利根川上流河川事務所でリーフレットを作ってくれた。今度の４月のクリーン作戦の時などにみんなで一斉に配布して啓蒙したら良いのではないか。

・この冬は野鳥を観察する人が多くて、車の縦列になっていた。チュウヒやハイイロチュウヒのねぐら、コミミズクなどの観察の人に配った。話をしながらパンフレットを配る、人と人の関わりが必要。年に２回くらい行うのがよいと思う。４月のクリーン作戦の時に配ることを提案したい。

○栃木市遊水地課　小林氏

・事務局側からテーマの１から４までを皆様に検討いただき、それを踏まえて３月~５月の皆様の取組みを見させていただきながら、部会として取り組んだらどうかというご提案を差し上げたい。

・３月~５月に行われるものとして、ヨシ焼き、クリーン作戦があり、外来種の除去の活動が大々的に行われる時期である。小山市での取り組みもあり、栃木市の取り組みで今回は人を多く入れて谷中湖周辺での外来種の除去活動及び、クリーン作戦的なゴミ拾いの活動をさせていただこうと思っている。

・各自治体、各団体入りやすいものだと思う。いままでの実績もあり、参加いただく事によって取り組みを知ってもらうことも重要なことと考えている。
・各自治体や各団体で行っている事を整理すれば、実施は難しくないと考えている。部会の取組として提案したい。

○発言者不明
・先程、内田さんからパンフレットを配る、という意見があったが、遊水地に来る人だけで無く、こんな協議会が、こんなパンフレットを作って活動しているよ、というのを周辺の住民へも回覧などで周知するのがよいと思う。

○渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会　猿山氏
・栃木市の事務局から提案があったことについて、小山と栃木とそれぞれが行っている事業に、どちらも参加したいが重なっていて参加しにくい場面もある。事業を知らせるのに小山の主催のものは小山の人が参加するという食い違いがある。栃木の催しに野木や古河の方も関心あると思う。広める方法が大切だなと思った。提案のように協議会で一体となって行うのであれば、問合せ先が協議会になったり、チラシなども共通のものでお知らせできたらいいなと思っている。

○渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会　大川氏
・渡良瀬遊水地の環境はヨシが少なくなりオギが多くなったなど、だんだん悪くなっている。
・乾燥化によって環境が悪化している。どのように遊水地の環境を維持していくのかを検討してもらえるような会議であればいいのかなと思う。
・このままではせっかくの良い環境がどんどん悪くなってしまうのではないかと、かなり危機感を持っている。最低でも 2010 年の環境をめざしたい。

○渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会　猿山氏
・遊水地の中を知っていそうで知らないので、軽い観察会やぐるりと回る催しを、保全利活用協議会の名前で、５月頃にやったらどうかなと思った。

【議長より】
イベントにぶつけて外来種の対策・ゴミの対策を部会の取組として行っていくこととしたい。
細かくは、事務局や幹事会で詰めていきたいが、方向性としてはよろしいか。

部会員から賛同の声

４．情報交換
○渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会　猿山氏
・市民による生きもの調査の野鳥の資料（資料６）

５．その他
・事務局より次回開催の案内（資料７）　５月２５日（水）

○ラムサール湿地ネットわたらせ　楠氏

・７月３日をラムサール条約登録記念日としたが、先程猿山さんが仰った見学会など、協議会として何かできないかなと思っている。事務局でも何か考えてもらいたい。

６．閉会

・司会より閉会の辞